

賀春

どんど焼き(北又地区)

第4回議会定例会概要	2~3ページ
令和5年度村政への提言	4~5ページ
一般質問	6~9ページ
エレクトーン演奏会	9ページ
飯伊市町村議会議員研修会	10ページ

タブレット端末導入に向けた視察	10ページ
リニア残土埋め立て計画	11ページ
キャンプ場視察	11ページ
議長コラム・編集後記	12ページ

第4回 下條村議会定例会

会期 12月8日から12月16日まで

●新型コロナウイルス感染症関連や物価高騰対策などの増とする補正予算(第4号)(第5号)可決。

●「下條村個人情報保護に関する法律施行条例」などの制定4件、「職員の定年等に関する条例」など、条例の一部改正10件、「職員の再任用に関する条例」など条例の廃止3件を可決。

令和4年第4回定例会は、12月8日に召集され、16日までの9日間の会期で行われました。報告が1件、条例の制定が4件、条例の改正が10件、条例の廃止が3件、補正予算4件、請願が1件、意見書の発議1件が提出され審議の結果議題のすべてを承認/可決し閉会しました。

初日に行われた一般質問はP6以降に詳細が掲載されています。

▼報告

○損害賠償の額を定めることについての専決処分の報告

○公用車を運転中に職員が起こした事故により、相手方の車両の損害を賠償した額が決定したものの報告がありました。

▼条例の制定

○下條村個人情報の保護に関する法律施行条例の制定について

・個人情報の保護に関する法律が改正されたことに伴い、下條村個人情報保護条例を廃止

し、改正法により新たに条例を定めるもので、開示請求に係る手数料の設定や情報公開・個人所法保護審査会の役割など関係事項等について定めたもので、審議の結果、原案どおり可決しました。

○下條村情報公開・個人情報保護審査会条例の制定について

・個人情報の保護に関する法律が改正されたことに伴い、新たに条例を定めるもので、情報公開・個人情報保護審査会の設置及び組織並びに調査審議の手続等について定めたもので、審議の結果、原案どおり可決しました。

○下條村行政手続きにおける押印の見直しに伴う関係条例の整備に関する条例の制定について

・申請手続き等の簡素化、内部事務手続きの効率化を図り、デジタル化推進に向けた環境を整備することを目的に法令根拠等に基づかないものなどの押印の見直しを行うもので、下條村職員の服務に関する条例など4つの条例について押印部分を削るもので、審議の結果、原案どおり可決しました。

○下條村議会事務局設置条例の制定について

・地方自治法第138条第2項の規定により議会事務局の設置条例を制定するもので、審議の結果、原案どおり可決しました。

▼条例の一部改正

○議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関

する条例の一部を改正する条例について

・特別職の職員の給与に関する法律の一部を改正する法律が公布されたことに伴い条例を改正するもので、期末手当の支給月数を0.05月引き上げるもので、審議の結果、原案どおり可決しました。

○特別職の職員で常勤の者等の給与に関する条例の一部を改正する

○特別職の職員の給与に関する法律の一部を改正する法律が公布されたことに伴い条例を改正するもので、期末手当の支給月数を0.05月引き上げるもので、審議の結果、原案どおり可決しました。

○一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について

・人事院勧告に準拠したもので、勤勉手当支

給月数の引上げと主に若年層の俸給月額引上げを行うもので、審議の結果、原案どおり可決しました。

○下條村印鑑登録及び証明に関する条例の一部を改正する条例について

・令和5年2月より開始予定の個人番号カードを使用して、コンビニエンスストアに設置の多機能端末機で印鑑登録証明書及び住民票を発行するために必要な改正を行うもので、審議の結果、原案どおり可決しました。

○下條村議会委員会条例の一部を改正する条例について

・申請手続き等の簡素化、内部事務手続きの効率化を図り、デジタル化推進に向けた環境を整備することを目的に法令根拠等に基づかないものなどの押印の見直しを行うもので、審議の結果、原案ど

り可決しました。

○職員の定年等に関する条例の一部を改正する条例について

○職員の勤務時間及び休暇等に関する条例の一部を改正する条例について

○下條村職員の懲戒の手續及び効果に関する条例の一部を改正する条例について

○職員の一部を改正する条例の分限に関する条例の一部を改正する

○職員の再任用に関する条例を廃止する条例について

・右記の一部改正5件、廃止1件は、国家公務員・地方公務員ともに定年が段階的に65歳まで引き上げられることに伴う改正で、主な内容は、役職定年制や令和14年まで2年に1歳ずつ定年の段階的

な引き上げなどで、審議の結果、原案どおり可決しました。

▼条例の廃止

○下條村地域振興券交付事業特別会計条例の廃止について

・事業の終了に伴い、条例の見直しの結果廃止するもので、審議の結果、原案どおり可決しました。

○小松原集会所設置条例の廃止について

・小松原コミュニティセンターが建設されたことに伴い、存在しない建物となった小松原集会所の設置条例を廃止するもので、審議の結果、原案どおり可決しました。

▼補正予算

○一般会計(第4号補正)専決処分

《2、400万円を増額》
総額31億5,600万円

【歳入の主なもの】
民生費国庫補助金に1,856万円、民生費県補助金に150万円、地方交付税に284万円などを増額。

【歳出の主なもの】
住民税非課税世帯給付金給付事業などとして2,006万円、陽卓公衆トイレの管理費として200万1千円を計上し、事前にその内容の詳細を各課課長より説明を受けたうえで審議に臨み、原案どおり承認しました。

○一般会計(第5号補正)増額
《1億5,800万円を増額》
総額33億1,400万円

【歳入の主なもの】

地方交付税に3、891万円、災害復旧費国庫負担金に2、001万円、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金5、827万8千円、第三の居場所設置事業助成

金2,000万円、緊急自然災害防止対策事業債1,030万円などを増額。

【歳出の主なもの】

子育て応援給付金関係経費として615万4千円、きのこと栽培施設燃料等価格高騰対策給付金、肥料価格高騰緊急対策給付金など3事業補助金として1、169万5千円など新型コロナウイルス関連並びに物価高騰対策として合計2,672万3千円を計上。その他、議会タブレット導入関連費252万2千円、第三の居場所建設関連経費として3、574万1千円などを計上、事前にその内容の詳細を各課課長より説明を受けたうえで、慎重審議を経て、原案どおり可決しました。

○下條村介護保険特別会計(第2号補正)増額
《1,860万円の増額》
総額4億9,930万円

○下條村介護保険特別会計(第2号補正)増額
《1,860万円の増額》
総額4億9,930万円

【歳入の主なもの】

・国庫支出金572万3千円、支払基金交付金653万3千円などを増額、介護保険料3万3千円を減額

【歳出の主なもの】
・介護サービス等諸費を3,036万円などを増額計上、介護予防サービス等諸費258万円、特定入所者介護サービス費410万円などを減額計上、事前にその内容の詳細を担当課長より説明を受けたうえで、慎重審議を経て、原案どおり可決しました。

○下條村営水道特別会計(第3号補正)増額
《現予算8,640万円は変更なく歳入歳出の内容を変更。》

【歳入の主なもの】
基本料金の減免を

3ヶ月延長で535万円減、基本料減免に対する繰入金535万円を増。

【歳出の主なもの】

電気料高騰により160万円増、基金積立金を160万円減などを計上し、事前にその内容の詳細を担当課長より説明を受けたうえで、慎重審議を経て、原案どおり可決しました。

【請願】

安全・安心の医療・介護実現のため人員増と処遇改善を求める請願書
民生福祉委員会に付託、審議の結果「採択」され、本議会においても「採択」されました。

【議員発議】

●安全・安心の医療・介護実現のため人員増と処遇改善を求める意見書
【可決】

令和5年度 村政への提言



令和5年度の予算編成に向けて、金田村長に対し議会からの提言を行いました。
下條村議会は、村民の負託と期待に応えられる活発で魅力ある議会を目指して研鑽を積み、質問や提案がしっかりとできる議会づくりに取り組んでいきます。

令和5年度予算に對する提言については、議員と村民との対話や議会審議の中で浮かび上がった課題を、各常任委員会において慎重に協議し、議会の総意としての提言をまとめました。
歴史と伝統を誇る下條村が、未来に希望を持てる持続可能な村としてさらなる発展を続けるために、村民の声を反映した重点的な予算配分がなされるよう要望するとともに、村の資源と財産を有効に活かすために、村政に手腕を発揮することを期待します。
本提言が議会の総意によってまとめられたことを受け止められ、予算編成に反映されるよう強く要望いたします。

1. 新型コロナウイルス対策について

- (1) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策の周知徹底と、村民生活の安心安全を図るための支援の継続
- (2) 感染拡大の状況に応じた村民や村内事業者に対する経済的支援の継続
- (3) 感染拡大の状況に応じた検査の拡大、水際対策のための抗原検査キット購入補助金の継続

3. リニア残土埋立工事の情報提供について

- (1) リニア残土埋立工事の進捗に関する早期の情報提供

4. 移住定住施策について

- (1) 村の魅力の情報発信と人を呼び込む交流イベントの充実および支援強化
- (2) 移住定住促進を目的とした住宅および住宅用地の確保、定住促進住宅の新築と土地取得に対する年齢制限の引上げおよび補助金の上限の見直し、移住奨励支度金の年齢及び地域制限の削除、住宅リフォーム等補助事業の継続、メゾンコスモスの計画的な施設整備

2. 財政運営について

- (1) 国の動向や事業の長期的な見通しを踏まえた健全財政の堅持、および基金の有効活用

10. 学校教育施策について

- (1) 若者のUターンに繋げるための村内企業等でのキャリア教育、歴史文化・伝統芸能などの郷土教育の充実強化により村の魅力や特色を活かした学校づくりの推進
- (2) 不登校児童・生徒に対する支援体制の充実
- (3) ICT機器と支援員の充実によるICT教育の推進

9. 文化教育施策について

- (1) 村の文化遺産の計画的な整理保全と保存施設の建設と整備、および教育的活用への推進
- (2) 戦没者・公務殉職者追悼式の意義を踏まえた、青少年を含む一般村民の参加や講演会実施など式典内容の見直し

8. 福祉健康施策について

- (1) 下條村公共交通対策検討協議会の答申を尊重し、福祉バスの小型車両導入や路線の見直し、運行日程、利用資格など運用方法の見直しによる、村内公共交通の利便性向上の推進
- (2) 健康増進の更なる推進を目的とした特定健診等の受診率向上、糖尿病教室などによる健康指導の強化、いきいきらんどリハビリプール等の健康効果の周知による活用促進
- (3) クアオルト健康ウォーキング事業の推進
- (4) 介護予防事業の更なる充実と事業への参

7. 防災減災対策について

- (1) 防災減災対策や利便性向上を目的とした年度計画に基づく道路および法面、橋梁の整備推進
- (2) 住宅地や農地における急傾斜地など、災害危険区域に対する防災減災対策の強化
- (3) 大規模災害に備えた防災マップ活用による防災教育と訓練、防災のための人材育成と活用の推進、地域の要望により防災備蓄倉庫の設置検討

5. 公共施設整備について

- (1) 村内公共施設の老朽化に備えた、優先順位を考慮した年度計画に基づく整備の推進
- (2) いきいきらんど下條の優先順位に沿った施設改修
- (3) 村営水道の更なる安心安全対策としての二次水源の確保、および老朽化に備えた管路更新等の年度計画に基づく整備の推進
- (4) 通学路などの歩行者に対する安全対策の強化推進
- (5) ふるさと納税返礼品の更なる拡充による特産品の知名度向上の推進
- (6) 農産物の村内消費拡大を目的とした販売イベントや販売場所の開設など、地産地消を促す仕組づくりの推進
- (7) 農業を活かした滞留型観光推進のための農家民泊等に対する取り組みの強化

6. 産業振興について

- (1) NPO法人「元氣だ下條」を活用した農産物のブランド化、および農業収入の向



子ども「第三の居場所」作りをどう進めていくか

Q B&G 財団の助成を使つての居場所作りに、どんな構想・基本方針を
もっているか。

A 少子高齢化の進展、コロナ禍等により、人と人のふれあいや交流の場が減り、
子どもも大人も社会的居場所が減少。家庭・学校以外の場で、信頼できる大
人や友だちと安心して過ごせる場所が必要となっている。老朽化したヤングコ
ミュニティハウスを取り壊し、ワークスペース、談話室、キッチン等を備えた施設を新
築する。令和6年4月にオープン予定。

Q 村の実情に合わせて柔軟な対応、多様な運用が可能か。

A 子どもだけでなく、保護者や地域の人も使う。学校に通いづらい児童生徒
の居場所、学習のサポートの場として活用。

Q 施設の運営に対する村民や利用者の提案・アイデアを寄せられるよう要望したい。

A 事業要件に事業を推進する運営委員会等を設置することになっている。関係機関と連携をとり、提案・アイデア、子
どもに関する情報を共有し検討する。

Q 地域おこし協力隊を居場所の常駐スタッフとして採用し、新しい風を入れるのはどうか。学校との連携を密にして、
「第三の居場所」の利用で、不登校を未然に防ぐことを提案する。

A スタッフの募集は、地域おこし協力隊の公募も考えている。



丸山 浩子 議員

下條村議会における多様な人材確保と 議員報酬について

Q 来年4月予定されている村議会議員選挙では、地区推薦はもとよ
り、農業者、商工会、女性の会、高齢者、メゾン住民など、村民
各層からの立候補を得て行いたいと思う。前回村議選は地区推薦
候補を主体とした選挙であり、村の考えを聞きたい。



塩沢 道雄 議員

A 総務省は第33次地方制度調査会で「地方議員のあり方について」
を議題とし、今後の取り組みの必要性に触れ、多様な人材の参
画を前提に議会運営として、勤労者や女性や若者等幅広い層の
議会参画、処遇改善として議員報酬の議論、デジタル化技術活
用など公表した。議会としても活発、建設的議論をされたい。

Q 現行の議員報酬は、生業としては成り立たない。生活費のかさむ若・壮年世代、議員活動を休
暇で対応する定職のある方など立候補の意思がありながら果たせない方に対する報酬を改正し、
また、多様な議員確保のため議員定数を見直し、立候補を促したい。

A 県下では、上伊那郡中川村及び東筑摩郡生坂村の2村で、基本報酬のほかに年齢に応じた加算
額を対象議員へ支給している。議員定数について、本村は昭和61年3月、16名を14名に、そ
して財政健全化などを主旨に、平成16年6月、14名を12名に、平成18年3月、12名を10
名に改正した。報酬、定数のいずれも議会として熟議が必要で、前出制度調査会報告も指摘し
ているように、住民への周知には十分な期間が必要で、少なくとも1年前にはそれが出来るよう
準備されたい。

一般質問 (12月)

一般質問 (12月)

物価高騰に対する村民への生活支援について



串原 稔博 議員

Q 物価高騰が続いており、村民の生活支援の為の更なる支援
が必要だと思われる。また、今後の物価高騰に対して、ど
のように取組んでいくのか。

A 子育て世帯の平成18年4月2日以降に生まれた児童に「下條
村子育て応援給付金」として600万円を予算計上し一人あたり
1万円の給付をします。
また「きのこ施設栽培燃料等価格高騰対策支援事業」として
720万円、「肥料価格高騰緊急対策支援事業」として320万
円、「畜産経営継続支援事業」として130万円を予算計上して
支援を行います。
今後も諸物価高騰の状況を見ながら、村民の生活を支えるため
の対策に取り組めます。

水道料金の基本料金減免の継続について

Q 令和4年7月から12月まで、水道料金の基本料金の減免を行ってきたが、物価高騰の中、
基本料金の減免を継続してもらいたい。

A 引き続き、令和5年3月まで基本料金の減免を行います。

災害に強い道路環境整備について



田中 兼次 議員

Q 令和3年度道路路面点検事業で本年6月までに村道10路線
316箇所を調査点検し健全度の評価が成されたが他路線の調査
についてどのような認識であるか。

A 今回点検を実施した10路線は防災計画に掲載された孤立予想
地域を通る村道で交通量の多さ、高い法面のある主要道を選定
した。次年度も集落間を結ぶ利用度の高い11路線を点検する
予定です。

Q 今回の点検で判定区分Ⅲの「早期措置」と判定された10箇所の
修繕計画は。

A 村では10箇所の法面修繕を次年度から5カ年計画で実施して
いく。財源は充当率100%、交付税措置70%の緊急自然災害防
止事業を活用する。国は「5カ年加速化対策」の後継事業実施
計画の検討を進めているので情勢を見極めながら財源確保をし
ていく。

Q 判定区分Ⅲとされた道路路面のリスクについて地域住民への情報提供はどう考えるか。

A 今回の点検結果は区分Ⅲの「早期措置」段階であり点検結果の周知は行わないが、今後区分Ⅳ
の「緊急措置」の判定になった際は危険となる為速やかに周知していく。

遊休農地の解消対策について

Q 遊休農地と農家戸数の推移について村はどの様に把握しているのか。

A 遊休農地の推移については平成23年25.8haだったのが、令和3年51.0haとほぼ倍増している。農家戸数は2010年505戸から2020年420戸と、17%減少している。

Q 遊休農地解消に向けた取り組み状況は。

A 取り組みとして村では、ソバ栽培を進めて来ました。平成7年7haから平成23年47.3ha、令和3年50.9haと拡大して来ました。令和元年ソバ乾燥調整所が完成し、令和4年低温貯蔵庫を設置しました。これにより生産者の作業効率、品質向上が図られ、規模拡大につながると期待しています。

Q 専業農家の育成、拡大が、荒廃農地の減少につながると思うが、村としてどのような役割を果たすべきだと考えるか。

A 村としては、農業委員会を中心に農地の流動化を促進し、担い手への集積を図る。2として、農業経営の共同化の推進、3として意欲のある農業者への支援強化を図る等考えております。担い手不足、荒廃農地解消に向け、令和3年度より農業用機械導入事業補助を創設しました。43名の利用があり、今年度も、多くの方に利用いただいています。
リニア中央新幹線開通後を見据え、農業を基盤とした魅力ある村を目指し、「元気だ下條」とも連携し、農業振興を図って参ります。



申原 肇 議員

ショッピングひさわ閉店について

Q 村内唯一のスーパーがなくなり非常に不便を感じていますが村としてどの様に考えているか。

A 買物弱者のために近隣町村のスーパーへ無料送迎バスを出している。又、山田河内のコンビニエンスストアに肉類や野菜等の品物を増していただけるようお願いした所です。飯田市に近い村としてスーパー等従来通り民間の出店を考えていますので出店していただける環境づくりに全力で取り組んでいる所です。

Q 今後についてはどうですか。

A 自己破産の申請を出していると聞いておりますので法的な処理がなされると理解しております。建物については組合所有とのこと。中には食品部門の機械等ありますので法的に処理されるまで注視して参ります。
その間類似店舗を中心にショッピングひさわ及び組合との連絡を取りながら後利用の可能性のある事業者に対し引き続き打診して参りたいと考えております。



福澤利尚 議員

一般質問 (12月)

一般質問 (12月)

826aska エレクトーン演奏会

学習支援事業

11月5日にコスモホールにて山田河内地区主催の826askaのエレクトーン演奏会が開催されました。オープニング曲、千本桜で会場にいた皆さんは大迫力で驚いたと思います。エレクトーンの多重奏でオーケストラを聞いているようでした。アンコールを含め全12曲を鑑賞しました。素晴らしい演奏会を企画、開催してくれた山田河内公民館の皆さんありがとうございました。この事業の目的を尋ねた所、コロナ禍により閉塞した村内の子供から熟年まで幅広い年齢層の皆さんに、質が良く楽しいステージを鑑賞いただき、学び、元気になっていただく事を目的にしたとの事です。

平成28年4月から施行した下條村村民学習支援事業とは村民自ら学ぶ機会を計画し、講師等の費用を村が負担する。事業を計画する責任者は村の各種団体役員の方との事です。詳しくは教育委員会に問い合わせてください。(竹村宗次)

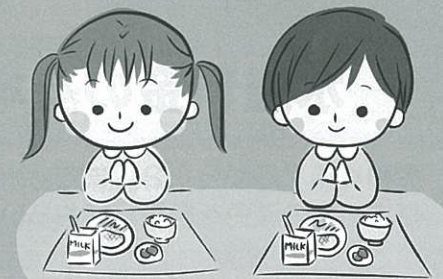


申原 寛治 議員

給食費無償化について

Q 憲法で、義務教育はこれを無償とすると定めている。全国で小中学校とも無償化した自治体は256になった。全国の自治体数の15%を超えた。県内で、無償は21自治体で28.7%と広がっている。一部補助自治体は52自治体となっている。給食は、子供の食生活の改善や、健康な体づくりに欠かせない大事な事業だが、月額では5000円を超えるようになり、子供の多い家庭程大きな負担となっている。下條村は支援策として5割から7割補助まで拡充してきたが基金などを活用し無償にすべきではないか。

A 学校給食法により、運営などの費用は学校設置者が負担し、食材費等は保護者負担とされており、補助金による支援をしている。現在年間の保護者負担は、一人1万7千円~2万程となっている。物価高騰で食材費が上がっているので、来年度は見直すが、上昇分を含め更なる子育て支援として補助率の引き上げを検討している。



飯伊市町村議会議員研修会

10月31日



令和4年度飯伊市町村議会議員研修会が、10月31日、下條村コスモホールを会場として、関係する飯伊の議員160名が参加し開催されました。

研修は「文化財やジオパークから学ぶ地質と防災」をテーマとして、信州大学地域防災減災センター、大塚勉

特任教授によるご講演をお願いしました。はじめに、ジオパークとは「地球科学的に見て貴重な特徴を含む自然公園」で、文化財として保護されているもので世界中には177ヶ所あること、そして日本国内では南アルプスジオパーク、糸魚川ジオパークなど9ヶ所あり、夫々地質遺産として保全され、その価値を伝えているとのことでした。

講演では断層、隆起、褶曲など、普通では目にすることの出来ない多数の図や写真を用い、ジオパークにおいて確認できる災害の原因となった地表、地下の動きの説明がありました。

私たちは、マグニチュード8〜9で、30年以内に70〜80%の確率で発生するとされる東海、東南海、南海地震に対する日常的備えが必要になっているが、この地震の発生メカニズムはフィリピン海プレートがユーラシアプレートの下に沈み込む動きが原因となる。また、長野県には、日本に関係している4つのプレートの動きで、東西からの圧縮を受けており、多くの活断層が地震の源になっているとのことでした。

各議員は研修を基にし、地震等災害の仕組みをわきまえて対応することを決意し散開しました。(塩沢道雄)

タブレット端末導入に向けた行政視察

11月14日



下條村議会では、議会改革の一環としてタブレット端末の導入について検討してきました。

6月の議会一般質問において導入について提案し、村として前向きな回答を頂きました。そこで令和3年よりタブレット使用に取り組んでいる天龍村議会を訪問し、勉強会を実施しました。その内容について報告いたします。



11月14日午後、定例議員全体会の行事として視察を行いました。

天龍村の熊谷議長より導入の経過概要について説明を受け、実際使用している端末により使い方の説明を受けました。導入により期待される効果として、用紙代の節減、印刷等職員の人力の削減、情報の取得、共有の迅速化、資料の保管等の省力化等が挙げられます。

12月議会において、導入経費の補正予算が可決され、導入が実際のものとなりました。1年後を目安に紙ベースからタブレット使用の議会運営に替わる様に取り組み予定です。(申原 肇)

リニア残土 埋め立て計画が進展



下條村リニア中央新幹線関連工事対策協議会が12月13日開催されました。今回で第7回目となった協議会では火沢地籍における発生土処理の工事概要についてJR東海から具体的な説明がなされました。盛土工では最新の設計基準に基づき、三六災害を超える雨量の排水機能や大規模地震を想定した盛土の安定を確保していくとの事です。委員会メンバーからは盛土工の安定性や工事の安全対策などに関して深い質疑がなされました。今後

は環境保全計画で県の認可を経て来年度当初より準備工に着手となります。下條村火沢地籍がリニア残土処理の候補地となり約10年が経過しますが、地権者や地元住民の理解や下條村リ

ニア残土処理地計画特別委員会の後利用計画案の策定など様々なプロセスを経て、造成地の詳細設計に繋がっています。議会はリニア残土埋め立て工事の進捗に関する情報提供を親水公園の景色が変わりました。毎年、地区の役員と一緒に南の沢林道の草刈りを行っています。仕事を終えて眺める南の沢川は水が澄み、親水の名に恥じない場所だとしみじみ思うのです。

ところが、コロナ禍でキャンプ場が閉鎖され、訪れる人の少ない閑散とした公園になってしまいました。

けれども、今年は違います。県外ナンバーの車が何台も入り、その周りに形の様々なテントが張られています。

新しい景色 CAMP&CHEERS KANESHIGE

キャンプ人気が高まっています。今年度は、今年度は遅ればせながら、議員全体会で視察に伺いました。

10月4日、遅ればせながら、議員全体会で視察に伺いました。

支配人から運営状況を教えていただきました。キャンプ人気が高まっています。今年度は、今年度は遅ればせながら、議員全体会で視察に伺いました。

「とにかく草刈りが一番たいへん」と、初年度の感想です。下條の顔として広く知られるようになって、元気を発信してくれることを期待しています。(丸山浩子)





飯田広域消防が 阿南学園で 消防演習を実施

11月6日、阿南町の「障がい者支援施設阿南学園」で飯田広域消防本部の消防演習が行われ、飯伊の議長が視察しました。

阿南町消防団と合同で行われた演習には、消防団員のほか学園と応援協定を結んでいる地元住民組織の皆さんも大勢参加され、地域と一体となった大規模な演習となりました。演習は、学園の本館入口に設置された現場指揮本部の指揮で行なわれ、長野県内で初めて



配備された特殊多目的消防自動車による消火訓練や、施設職員も参加しての救護所設置、ドローンによる状況確認などが行われました。60人ほどの施設利用者の皆さんの避難誘導

訓練は、車いす利用者などを一人ひとり慎重に玄関口から誘導し、屋外に仮設された救護所に集合。皆さん落ち着いた様子で訓練に参加していました。

現場指揮本部のきびきびとした動きや、地域と一体となった避難誘導など、詳しい説明を聞きながら間近に見ることができ、大変有意義な視察となりました。

阿南学園の利用者の皆さんが、天竜川にほど近い自然ゆたかな環境のなかで、心安らぐ生活を送られることを願っています。

伊那谷の素晴らしい 風景を大切に

新井展望公園から見た風景が、長野県の発行する眺望カードに登場しました。カードは県が認定する「ふるさとのお宝」(丘)から選んで作成されたも



ので、村の南部を前景に、天竜川を中心とした伊那谷の雄大な風景が紹介されています。

に、伊那谷の風景の素晴らしさが失われないよう祈っています。

に90キロ先の諏訪の蓼科山が望めます。両公園とも、いつ訪れても眺望を邪魔しないよう、ねいに管理されています。公園を管理されている地区の皆さんに感謝するとともに



村の絶景ポイントと言え、極楽峠パノラマパークと新井展望公園。どちらの公園からも天竜川を中心に伊那谷の河岸段丘と南アルプス、中央アルプスの雄大な山並みが続き、天気の良いければ遙か彼方に

編集後記

この間、大きな災害等も少なく実りの秋から師走を迎えましたが、ロシアの侵襲が続く影響や、円安による輸入原材料の急激な値上がりが続く、物価高の嵐に見舞われ住民生活は困難になっています。

12月議会では、影響を受けている各種事業者や、生活困難世帯などへ緊急支援金支給や、コロナ感染での休校も関連するか、登校できない児童生徒も増えている、個々の学びに対応できるように、老朽化してきたヤングコミュニハウスを解体し、学校以外の多様な学びの拠点として、こどもの第三の居場所建設予算を承認しました。

ウィズコロナは引き続きです。何より基本的な感染症予防を徹底し、新しい年がより平和な世界に向かって動く年となるよう祈念します。(串原寛治)

編集委員会

- 委員長 串原 肇
- 副委員長 丸山 浩子
- 委員 串原 寛治
- 委員 福澤 利尚
- 委員 串原 稔博
- 委員 田中 兼次